

ながたに暮らし体験記



長谷には、新たな視点から
より良いものに変えていく
エネルギーがある！

皆様 明けましておめでとうございます。

昨年は、9月に台風18号により「みんなの田んぼ」が冠水し、恒例の収穫祭が開催できなくなり、非常に残念でした。私自身もなかなか「来ちみなあハウス」を訪れることができず、活動・交流が十分にできなかったことを申し訳なく感じています。

私が初めて長谷地区を訪れた際、国道57号(現在は県道57号線)から分かれ、長谷トンネルを抜けたときの日本の原風景的景観を見た驚きは、今も記憶に残っています。

長谷地区には多くの資源があります。その資源をどう活かすのか、地域としてどうまとめるのか、外部へそれをどのように伝えるのか、これらが重要なことです。

良いことに長谷地区では、『個力』と『地域力』のコラボにより、地域の多くの方々が交流し、共助研としても関わっている「みんなの田んぼ」、「来ちみなあハウス」、「私のこだわりトーク」などのような新たな活動も起こり、継続されています。

「継続は力なり」と言いますが、新たな視点からより良いものに変えていくことも求められます。そのためのエネルギーは長谷地区にはあると思います。

私も親の介護の関係で、地元に戻って10年近く経ちますが(その内4年間は単身赴任で、家族まかせ(汗))、若い頃は気づかなかった良さや課題に気付きたし、最近、地域をどうすべきかを考えています。



今年、「戊戌(つちのえ・いぬ)」で、私自身も一回りの区切りの歳となります。公私ともに色々と変革できれば・・・です。

今年一年、皆様が健康で、活躍され、地域のより一層の活性化を祈念して、年頭の挨拶とさせていただきます。

(共助研事務局長・松尾敏彦)

2018年1月12日発行

来ちみなあ 13号

(恒例の三ノ岳からの初日の出・渡邊雪法撮影)

「来ちみなあ」伝言板

「私のコダワリ」トーク 第5回の開催

- 第5回は、長谷出身の安倍直樹さん(大分大学4回生)が、「若者からの提言」と題してトークします。
- 1月27日(土)18時から、黒松生活改善センターで。
- トーク後19時から、「柴北川を愛する会」の新年会も。(会費 男1,000円 女500円)

今年も、「来ちみなあハウス」での活動を よろしくお願いいたします。

2018年が始まりました。皆様にも、晴れやかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

10年前の2008年11月に、福岡で共助研が産声をあげ、翌年5月から長谷の皆さんとの交流が始まりました。

あしかけ9年近くのお付き合いの中で、当初は、我々ヨソモノと皆さんとのキャッチボールで長谷の元気づくり活動を進めてきましたが、その後、地元の皆さん主導による活動のスタイルが定着してきました。最近の「私のコダワリ」トークでは、我々ヨソモノはもっぱら聞き役に回って、楽しく勉強させていただいています。

新年最初の「私のコダワリ」トークでは、かつて「長谷探検隊」として活躍された安部直樹さんに、長谷地区活性化に向けた提言をしていただきます。皆さん、共に若い人のエネルギーを感じてみませんか。(共助研・波木健一)

「来ちみなあ」は、柴北上の県道から北に入った山際にある交流施設「来ちみなあハウス」での活動を紹介する通信です。

発行：「来ちみなあハウス」店子グループ(柴北川を愛する会・共助研)

ながたに風



活性化に必要な物：人と金の資源

定年後、44年ぶりに自分の生まれた家で暮らし始めて7年目になりました。このところ忙しくて「柴北川を愛する会」の活動に参加できてない私が投稿するのは気が引けますが、一筆書いてみました。

まず、実家に住んでみて感じる地域の昔と今の違いですが、明確な変化は各戸の世帯人数の激減と平均年齢の上昇です。これが各種活動(農業・文化芸能・その他)の衰えに繋がっていると思います。

ここでもっと重要な今昔の変化を二つ述べます。

一つは、昔は退職者と言えば教師が役場の方々でした。しかし、今は違いますね。多彩な技能技術や他の能力を持った退職者や現役が沢山いることです。

もう一つの違いは、中山間過疎地への様々な補助金の交付が増えていることです。そこで皆さんどうでしょうか、今、長谷はこのような多彩な技能技術を持った人達や、多くの補助金を地域の為に有効活用しているのでしょうか？

答えはノー、です。

活用の一例を挙げてみます。

栗ヶ畑地区は、今年コミュニティー助成金を250万円貰えそうです。これで獅子舞などの整備を行います。他の交付金と合すると700万円以上の助成金を貰えます。このことで、事業や活動が増えて地域の皆の作業活動が増える→人の交流が増える→地域に活力が生まれ、地域が整備されてきれいになる→活動で得た日当の一部が飲食代に代わる→飲み会が増える→またやろうと次に繋がる。

このような好循環が生まれ、更に地域で眠っている技能技術者を活かすことにも繋がります。

私は今年度「ながたに振興協議会」で関係者と一緒に多くの新事業に取り組みました。この経験でも様々な人材の交流による良い効果を実感しました。

皆さん、是非地域で眠っている人材をもっと活かして下さい。もっとお金を貰って下さい。きっと長谷が、更に変わると思っています。

(ながたに振興協議会支援員・甲斐照昭)

